

【緑地の樹】

アズマネザサ

プロフィール：イネ科

緑地の至る所にあります。いくら刈っても刈っても、伸びてきて、大変！
高さ0.5～3m、直径5～30mmになる。葉は枝先に5～10数個つく。

緑地のあちらこちらに細い竹が生えている。篠竹と呼ばれるが、本当はアズマネザサという。すぐに領地を広げるので邪魔者扱いされるが、かつては様々に利用されていた。

畑では植物の支柱として使われていた。今は皆、緑色の節の様なでっばりのついた棒を買ってきて使っているが、篠竹が身近にあれば利用することをお勧めする。時間が経てば朽ちていくので、あの緑の棒のように不燃ごみを増やすこともない。

また若い茎の皮を編んで籠やざるが作られていた。緑地のメンバーKさんが小野路で習ってきた

めかい(ざる)を教えてくれるのでここでは以前のように利用されていくかもしれない。マイクロプラスチックのことを考えても、めかいを使っていくことは意味があるだろう。そんなに小難しいことを考えなくても、身の周りにあるものを最大限利用してきた先人たちをアズマネザサを見て思ってみてはいかが。(宇野)



斜面を縁取るアズマネザサ